

△おひとりさま 便り

おひとりさま時代の生き方
「まい方を聞いて一言」



No.22

遅かれ早かれ誰でも「おひとりさま」となる。一人になって嘆くのか、楽しむのか。己の生き様、どう生きていくのかで、幸にも不幸にもなる。親しく深いつながりのある知人を持ち、「近所さん、通学団の子どもたちと交流。今、私はおひとりさまを満喫している。(名華女)

現在、後期高齢者夫婦の生活、いずれ独居となる「おひとりさま予備軍」。子どもからの「悪魔のささやき」は予定にない。おひとりさまになったら施設に入る事かと思いましたが、お話を聞き、在宅での最期を迎える事ができたらと思いました。(GJファン)

おひとりさまは、まだ遠い未来だと勝手に思っている。一人暮らしの母に対して一語に住もうは悪魔のささやきだと教えられた。そうなんだ！少し不自由になつたら他人の力(行政や専門機関)を借りよう。あえて縛ったりしないのがお互いの為と学んだ講演だった。(しばP)

「寂しさは慣れる」とのお話しに、私は慣れたくないなあ...と思った。だって嫌なんだもん！私が先に死ぬますよう

に...と神様をお願いして眠るようになりました。(すみちゃん)

私にとって「ひとり暮らし」は憧れでも、それは賑やかな現実があるからその憧れであるかわかっている。しかし、いつの日か憧れのひとり暮らしがやってくることは、統計上の確率でいけばかなり高いはず。穏やかにその日を迎えるには、元気で長生きを目指さない！(チャーミー)

「家族がいるばかりに...」人生の最期にそんなことを親父やお袋に思われたくない。どうせなら「家族がいてくれるから...」と思われたい。(俺)

△ハモン博士のまとめ

「おひとりさま」が珍しくない時代、「一人ではかわいそう」「親を一人にさせておくなんて」という外野の声ではなく、本人や家族が「おひとりさま」をどう受け入れるか、ということじゃ。自分の人生の最後、準備や覚悟はもちろん必要じゃが、自己決定権を持つことができる家族関係を築いておきたいもんじゃない。



問合せ

おおぐち男女共同参画懇話会(地域振興課)
☎95-1691

Be Ambitious vol.277

町内にお住まいの
20代の皆さんがリレーで登場!

よさこい大好き!

近藤 彩さん(中小口) H6・8・9生



小さい子が大好き

小学生の頃から念願だった幼稚園の先生になって3年目。毎日がとても楽しいです。小さいころから年下の面倒を見るのが好き。今2歳児の担当をしています。かわいくてかわいくて。子どもから「先生大好き」と言われると、この仕事をしていて本当に良かったなと思います。子どもはみんな平等にかわいいです。手のかかる子は特にかわいく、卒園する時の寂しさが今から心配です(笑)。

同居している祖母が手作りで上手。料理や編み物がとても上手で、気づいたら自分もものづくりが好きでした。幼稚園の壁に貼る画用紙の飾りを作るのは、とても楽しいです。

よさこいひとずこー!

小4のときに妹と一緒に鳴子踊りのチーム「歩〜あゆみ〜」に入り、それ以来12年間、よさこいひとずこーで踊り続けています。チームはとても仲良し。下は高1から上は60代まで年齢層は幅広いですが、何でもいい合える仲。意見を出し合って全員で踊りを作り上げています。今メンバーが少なくなりましたので、いろんなお祭りに参加してチームを知ってもらい、メンバーを増やしたいです。今年も「やる舞い大祭」に参加します。息の合った迫力ある演舞をぜひ見てくださー!



▲昨年のやる舞い大祭にて「歩〜あゆみ〜」